

## 今月のテーマ：黄砂に関する情報について

これから春にかけて黄砂が観測されやすい季節を迎えます。黄砂は、中国内陸部のゴビ砂漠やタクラマカン砂漠、黄河流域の黄土高原などで起こった砂嵐によって巻き上げられた黄土が上空の西風によって日本上空に運ばれたものです。黄砂が日本上空に飛来した時には、空が白っぽくなり、遠くの景色がかすんでよく見えなくなります。黄砂により、洗濯物が汚れたり、健康への影響などがあり、顕著な黄砂になると見通しが数キロまで落ちて飛行機の離発着の遅れや高速道路の速度規制といった交通機関への影響も現れます。

また、黄砂は日常生活に影響を及ぼすだけではなく、黄砂粒子による太陽光の散乱や吸収、雲の特性の変化などにより気候へも影響を及ぼすと考えられています。

黄砂の発生は、冬季のアジア大陸での降雪・積雪などにより大きく変動します。最近の福岡における黄砂の観測日数は、昨年（平成15年）は少なかったものの平成12年から平成14年の3年間は連続して20日以上観測しており、増加傾向が見られます（図1）。

黄砂の観測日数

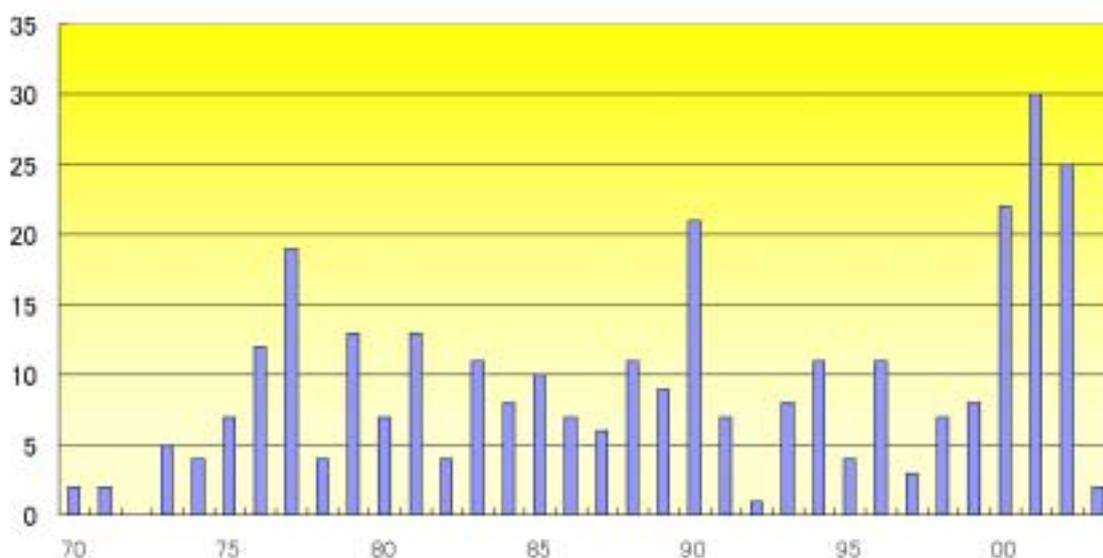


図1 福岡で観測された黄砂の日数の推移（1970年～2003年）

気象庁では、気象研究所を中心に黄砂の実態解明、気候への影響についての研究を進めています。この研究の中で黄砂の発生や広がりを予測する数値予測モデルを開発しました（以下、黄砂予測モデルと呼ぶ）。近年黄砂の観測回数が顕著に増加し、日常生活への影響も大きくなってきたことをふまえ、気象庁は、平成16年1月から黄砂に関する情報を発表することにしました。

気象庁や各地の気象台は、航空機の運行や日常生活に影響を及ぼすような黄砂が観測され、黄砂予測モデルによる予測結果や天気図の解析等から翌日以降も黄砂が継続する可能性が高い場合に黄砂に関する情報を発表します。また、図2のような黄砂の具体的な観測状況や黄砂予測モデルによる翌日の黄砂の予想図を、気象庁のホームページで提供します。

([http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/kosahp/info\\_kosa.html](http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/kosahp/info_kosa.html))

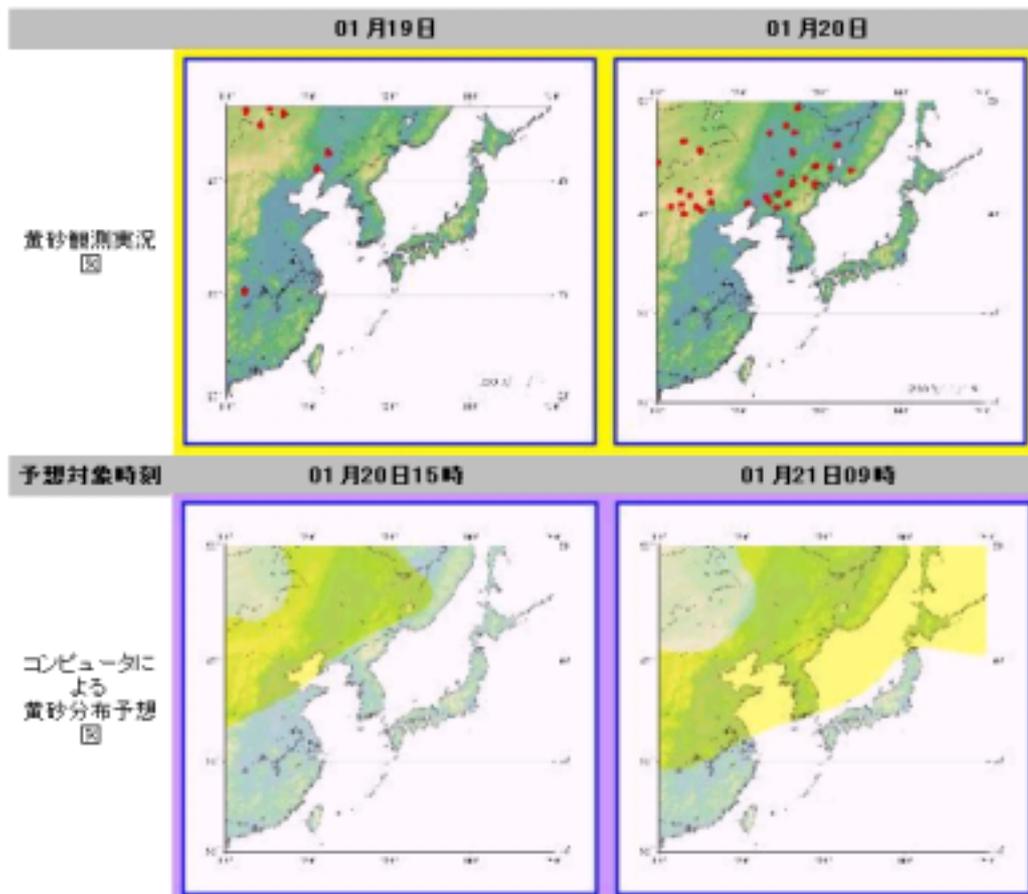


図2 ホームページで提供する図  
上：黄砂の観測実況図（赤丸が観測地点）  
下：黄砂予測モデルによる黄砂分布予想図  
（黄色の地域が黄砂の予想される範囲）